

N H K 批判

水上 忠

N H K の体質

一

A 間違いを直さない

誰にも間違いはある。すんなり認めた上で「ごめんなさい」と言って頂ければ、こちら
も気持ちがいい。

N H K テレビで「大仏開眼・かいげん」を何度も「かいがん」と言っていた。明らかに
初歩的な間違いだ。

もう一つ、N H K テレビ「海外安全情報」の冒頭部分が文法的に間違っている。毎日、
毎日、一日に何回も繰り返し放送している。

「海外を安全に旅行したり暮らしたりするために」

なんとなく居心地の悪い言い回しだ。文脈として「海外を安全に旅行したり」「海外を
安全に暮らしたり」となる。「を」が間違いなのだ。「海外で安全に暮らしたり」でなけ
れば落ち着けない。

右記の二点について質問した。無礼な返信が来た。

「ご指摘の「開眼」は、ご指摘の通り「カイゲン」で「カイガン」は誤りです。もしそのようにいっているとしましたら申し訳ございません。

海外安全情報での用語もご指摘の通りです。用語の問題は公共放送として日頃留意しているところですが、時に、ご指摘を受けることがございます。今後とも気をつけてまいりたいと存じます。

二〇〇一年一月十五日 N H K 視聴者ふれあいセンター（鈴？木？）

（読めない）

猛烈に腹が立つ。

「もしそのようにいっているとしましたら」とは何だ。無礼者馬鹿者と怒鳴りたい。ビデオで確認もしていないのか。そんなに物ぐさなのか。N H K の経理は公共料金なのだ。こんな者に公共料金を割いて給与を支払っているのか。月給泥棒め。税金盗っ人野郎。

海外安全情報の間違いについて「ご指摘の通り」と認めながら、その後、半年近く、現在も訂正されていない。

二

なんとという無責任さ……。

こんな無頼漢の書く回答だ。文字が投げやりだ。相手に読んで頂くという心が全くないと言いたくなる。氏名が読めない。文面が野卑だ。「ご指摘の開眼は、ご指摘の通り」とは、なんと無神経な脈絡なのだ。なにが「ふれあいセンター」だ。

この回答コピー同封で、いちおうの抗議はしたが、黙殺されている。都合が悪くなれば無視するのがN H K や日本の官僚の体質なのだ。視聴者に対する誠意など皆無なのだ。いつも返信切手が盗まれる。窃盗罪で告訴したいものだ。

B 共同通信の渾身の

こんな薄汚いN H K に比べたら次の回答は爽やかだ。（株）共同通信社・健康情報センター『キッチンからの健康』の誤記・疑問表記を指摘した。その回答だ。

前略 『キッチンからの健康』ご購入ありがとうございます。ご指摘いた

いただきました件、弊社の明らかな誤りであり、お詫びして訂正させていただきます。

① 「腹八部目」←「腹八分目」

② 「海草」←「海中の顕花植物、アマモ、イトモ、スガモの類」

「海藻」←「海中の隠花植物、コンブ、ヒジキ、ワカメの類」

であり、文中の意図からすると「海草」と誤植したのは明らかな誤りでした。

水上様のご見識に敬服すると同時に、ご指摘の件に関しましては増刷の折りに訂正させていただきます。

なお、今後とも共同通信社の諸事業にご理解いただければ幸甚です。

取り急ぎ用件のみで失礼いたします。有り難うございました。 早々

二〇〇一年二月六日 共同通信社・健康情報センター 増田 駿

ミスを恥じる必要はない。ミスはミスとして、すんなり謝るのが一つの見識なのだ。それが出来る人格者の書く文章には格調がある。ミスを見苦しく言い逃れしようとする卑劣者の文章は乱れていて下品だ。

三

C 国賓待遇

一九九九年一月ごろ、夕刻のNHKテレビニュース番組だった。

次は、田口さんの気象コーナーです。田口さんに、いらっしゃって頂きました。

ワープロを打っていた私は、びっくり仰天してテレビ画面の杉浦圭子アナウンサーを振り返った。

まず「田口さんの」の「の」が変だ。格助詞「の」には種々の役割があるものの、どの辞書も真っ先に「所有・所属を示す」としている。用例は「君の本」などとなる。NHKの気象コーナーを田口さんが私財を投じて買い取っているのなら構わない。しかし、そんなはずないだろう。

「次は気象コーナーです。担当は（気象協会から派遣された）田口さんです」
これが普通のスタイルでなければならぬ。

さらに言うならばテレビ画面には田口晶彦の氏名が表示されている。なにもアナウンサーが重複して告示する必要はない。くだいし、時間とエネルギーの無駄だ。

「次は気象コーナーです」でいいのだ。

本来的には個人名のコーナーが間違っている。中村次郎さんの気象コーナーではなくて「いきいき首都圏ワイド」の気象コーナーなのだ。たまたま、そのコーナー担当者が中村次郎さんだったに過ぎないのだ。人間とは死ぬものだ。何々さんの気象コーナーでは、何々さんが死んだら困るではないか。偶像崇拜・個人崇拜は政治家でも芸能人でも禁忌だ。ましてNHKアナウンサーには場違いである。

何度も私はNHKへ手紙（返信切手貼付済み返信宛て名明記の返信封筒を同封）を出しているが、二年間、いまだに「の」への見解は回答されていないし、アナウンサーの発言も改まっていない。返信切手を返還しなければ（NHKの誰かが猫糞ねこぼんしているのなら）私はNHKを窃盗罪で告訴しなければならないのではないか。

四

都合の悪い問題は黙殺する。これが日本の官僚の体質だが、NHKも同じなのか。つまりNHKの職員は官僚なのか。

第二に「いらつしやって頂きました」は、とんでもない敬語だ。こんな最高級の敬語は、皇族か国賓でなければ使うべきでない。すくなくとも、気象協会の一職員に過ぎない田口さんに対して使うのは間違いだ。

D 狂気の回答

拝啓 おたより拝見しました。

「いらつしやって頂きました」という杉浦アナウンサーの表現が、ていねいすぎる、ということでしょうか？

田口さんは、番組のためにおむかえしたお客さんで、そのお客さんが視聴者の皆さんに、いろんな話（情報）を伝えて下さる、と考え、ていねいなことば

にしたのだと思います。

敬具

この回答者は正常な神経の持ち主なのだろうか。

まず「拝啓」は不自然だ。私の質問に対する返事なのだ。普通の人は「拝復・復啓」と書く。日本人として書簡常識が欠如している。

次に回答者の氏名が秘匿されている。これは社会通念上、失礼を通り越して、無礼さえある。私は匿名で質問しているのではない。回答者氏名秘匿理由を答えてほしい。

回答の日付もない。非常識の極みだ。

内容も異常だ。「『いらっしやって頂きました』という表現が『ていねいすぎるということでしょうか?』とある。文末の疑問符「?」には「ていねい過ぎませんよ」という回答者の気持ちが込められているのだろう。

職業として言葉を扱っている者の水準（言語感覚）が、この程度なのだ。

視聴者は、田口さんをNHKのお客さんと思っているだろうか。毎日、同じ時刻の同じ番組に登場する人が「お客さん」なのだろうか。気象協会派遣の「田代さん」や「渡辺さん」は、一日に何度もテレビ画面に登場している。NHKの立場としてはお客さんなのかも知れないが、それを視聴者に押し付けるべきではない。だいち「客」という語義は辞書によれば「①訪問者。②旅人」だ。田口さんは、この概念に当てはまらない。NHKと

五

気象協会との関係は視聴者が預かり知らぬものである。どんな関係かに興味もない。多くの視聴者に田口さんはNHKの「身内」として映じているのではなからうか。はじめてテレビ画面でお目にかかる大学教授のような方なら「お客さん」と分かる。毎日登場する人は「客」と違う。それであるのに、正真正銘のお客さんである大学教授に「いらっしやって頂きました」級の敬語は使っていないのだ。どのアナウンサーも「この問題は後で伺います」程度の言い方をしている。せめて「お伺いいたします」くらいの敬語は使えないか。杉浦圭子アナウンサーなら大学教授に何と言うのだろう。

あるアナウンサーは「いらっしやって頂きました」と最上級の敬語を使い、別のアナウンサーが「次は気象情報です。担当は平井さんです」と敬語を使わないのは差別であろう。こんな扱いではお客さんと言えない。なぜ、そのような差別をするのか。NHKのアナウンサー教育（養成）は、どうなっているのだ。

杉浦アナウンサー自身が田口さん以外の担当者の場合「いらっしやって頂きました」と言っていない。これも大問題だ。なんで、そんな差別をするのだ。それとも杉浦アナウンサーと田口さんとは特別の関係なのか。

そうであるとしたら、これまた公私混同である。

NHK会長あてに抗議した。アナウンサーを束ねているらしい人物が、この問題に返信を下さった。役職氏名明示の折り目正しい回答だ。ここでは役職氏名を伏せたい。

気象協会の田口さんはNHKの番組の出演者ですので、丁寧な表現をすべきところですが、過重な敬語は必要ではないと考えます。ご指摘の例では、その丁寧さがやや過ぎたものと思われまます。

これなら納得できる。

あまりにも最初の回答者が無礼なのだ。

「いらっしやって頂きました」

これは杉浦圭子アナウンサーだけで、NHKに蔓延しなかった。杉浦アナウンサーは別の番組に移った。

私の再々度質問に再回答があった。

気象協会担当者紹介の際の表現です。彼らは毎日定時に出演していますけれ

六

ど基本的にはNHKの番組出演者ですので、アナウンスとしてそれなりの丁寧表現は必要です。ただし、水上様がお感じになるほどの「不公平感」があるとしますとそれは過剰敬語であり、今後は当人や視聴者に不快感を与えない程度の平易な丁寧表現を留意させてまいりたいと考えます。

これも納得できる。特に「今後は……平易な丁寧表現を留意させてまいりたいと考えます」に私は満足した。

E 芸能人化

NHKは公共放送だ。NHKテレビアナウンサーは芸能人と違う。アナウンサーの芸能人紛いと言いたくなるような言動は苦々しい限りである。その端的な表れがアナウンサーの自己宣伝だ。テレビ画面にアナウンサー氏名が字幕として表示されているにもかかわらず、アナウンサーが自分の口で自分の名前を宣伝する。なぜ、そんな必要があるのだ。毎日、同じ時刻に同じ番組で顔を見せるアナウンサーが、毎日、毎日、自分の口で自分の名

前を宣伝する姿に背筋が寒くなる。それを何百回も耳に聾^{たご}が出来るほど聞かされる視聴者は被害者だ。これでもか、これでもか、と迫って来るアナウンサーの氏名宣伝に吐き気を催す。

「あなたは参議院選挙に立候補する魂胆でもあるのですか」と質問したくなる。もし、そうであるなら、とんでもない地位利用だ。公共放送の私物化である。

午後四時「日本列島 ふるさと発」など、毎日、同じ顔のアナウンサーが「金井美恵子です」「金井美恵子です」「金井美恵子です」と繰り返している。正気の沙汰ではない。

拜復 若葉の目にしみる候ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、NHKの放送につきまして、深いご理解をいただきありがとうございます。

さて、先月NHKにお問い合わせになりました件でございますが、放送の現場でアナウンサーの運用をしております立場で、次の様に考えています。

画面にアナウンサーの名前が表示されているのに、アナウンサーが名前を言うという件ですが、すべてのケースでそのようにしてはおりません。演出上の

七

必要で、定時の出演者も含めて、毎回名前を紹介する場合があります。

いずれにしましても、アナウンサー個人の自己宣伝ではございませんので、ご理解下さいますようお願い申し上げます。

重ねてのご指摘をいただきながら、返信が遅くなりましたことをお詫び申し上げますとともに、今後ともNHKの番組につきまして、なお一層のご理解を賜りますように、どうぞよろしくお願い申し上げます。

敬具

一九九九年五月十七日

役職氏名の後ろに署名があつて感銘を覚えた。最初の差出人不明怪文書と比べて雲泥の相違だ。怪文書には挨拶など皆無だった。この手紙は冒頭末尾に丁寧な挨拶が述べられている。なによりも前便の誠意欠落と違って折り目正しく、誠意にあふれている。

ところで「すべてのケースでそのようにしてはおりません」が気になる。すべてのケースでそのようにしてはならないのだ。そのような行為が一つでもあつてはならないのだ。

この点を巡って担当者で長い論議が続く。

ニュース番組ではアナウンサーが自分の名前を言っていない。午後七時の森田美由紀アナウンサーが自分の名前を言う場面は見かけなかった。しかし、ニュース番組が柔らかな傾向に流れ、芸能的な番組との境界が画然としなくなりつつある今日、原則を毅然と守る必要があるのではないか。原則とは、画面に字幕が出てアナウンサー氏名が視聴者に告示されているのならアナウンサーが自分の口で自分の名前を宣伝しないという姿勢だ。

担当者は私の主張に同調していない。しかし、何百という番組の中、アナウンサーの自己宣伝が次第に影を潜めて来た。私が異議申し立てを開始して二年後の今日、特に二〇〇一年三月～四月のアナウンサー人事異動後、自己宣伝が激減した。最後まで頑強に自己宣伝を繰り返していた「いきいき首都圏ワイド」の内多勝康アナウンサーは別の番組に移された。

もちろん、NHKが私一人の抗議で運営方針を変更させるとは考えられない。おそらく大勢の視聴者から同じような意見が寄せられたのではなからうか。

もう一つ気になる傾向がある。たとえば朝のニュース番組の中で担当アナウンサーが交替するとき、アナウンサー同士の仁義なのか、仲間意識なのか、「次は池田アナウンサーの何々です」「池田アナウンサーの何々でした」と、池田アナウンサーの氏名が画面に表示されているにもかかわらず、「池田アナウンサーです」と断る。視聴者は毎朝、二回、一年間に六百回も「池田」「池田」の連呼に付き合わされる。これは堪らない。勘弁して頂きたいものだ。「ただいま社長は不在です」「あいにく部長は出張してます」と身内の名前は外部に対して控え目にするという日本の社会慣行を無視するのがNHKの体質なのだろうか。

F アクセントの乱れ

NHKアナウンサーのアクセントが間違っていたら日本列島は救われない。

「背景」が「拝啓」と同じアクセントなのも困る。

これが実に多い。半数くらいのアナウンサーが間違っているのではないか。

水上 忠様

立秋が過ぎましたが、残暑というにはまだまだという酷暑が続いています。

お元気でしょうか。水上様とは、これで四通目の手紙になります。

お手紙にありました「背景」は平板アクセントで、「拝啓」は「は」が高い「頭高アクセント」です。

揺れているアクセントや表現に対しては、NHKの規範に則り、「モグラ叩き」のような指摘と指導を繰り返している毎日です。言葉は変わっていくものですから、やや保守的になりつつ瑞々しい表現を探っていくということになります。

そちらもお暑いことと思います。

どうぞ御自愛くださいますように。

一九九九年八月十一日

NHKのアナウンサー指導が「モグラ叩き」とは痛快な表現だ。こうした返信に接するとNHKに親しみが生まれる。

巨大組織は風通しが悪くなるものだ。このような返事を書く誠意の持ち主がいる限り、NHKが官僚体質であると絶望するのは、まだ早いと言えるかも知れない。

九

日本列島の常識破壊、日本語の乱れ、こういう事象に接すると本当に寂しくなる。私は身分不相応の国税・地方税を納付している。

「え、年金から税金を取るのですか、まさか、そんな高齢者冷遇の政治はしないでしよう」

日本人は年金課税を信用してくれない。ところが私など年金支給前に国税を源泉徴収されている。市民税は高額納税者だ。

日本列島の未来に無関心ではられない。

介護保険に加入した覚えはないのだが、それも徴収されている。全国民強制徴収なら保険ではなくて税金だ。どうも、いまの日本列島は変だ。会社を潰した馬鹿重役に九億円もの退職金を支払う。そんな会社へ税金を差し上げる。これなどは税金泥棒という犯罪だ。

変な日本列島に異議を申し立てなければNHKも同罪である。もつとNHKは健全な良識に基づいて発言すべきではないか。

なお、先進国で年金に課税しているのは、「日本だけ」と聞いている。私の年金手取り額は、小泉首相になってから急速に減少した。庶民に暖かい政治とは実感できない。

続 NHKの体質

A 間尺（まじやく？！）

NHKテレビの「大希林^{だいきりん}」という日本語教育番組で「間尺」を「まじやく」と教えていた。

変だなと思いつかの辞書に当たってみたが、この言葉には「まじやく」しかない。私の質問に番組制作担当者が次のような回答をして来た。

「まじやく」というのは江戸の口語です。（略）番組演出上の意図として、下町の粋な雰囲気を出したかったので、あえて「まじやく」という言い方をしました。

それならそれで、視聴者の誤解を避けるために配慮が必要だ。たとえば、次のように出演者が断る方法もある。

一〇

辞書には「まじやく」とあるがね、「まじやく」は江戸の方言なんだよ。

そういう私の指摘は黙殺された。辞書にもない言い方を日本語教育番組で強調する神経が私には理解不能だ。

何年後かに起こるかも知れない事件を私は想像した。会社幹部が若い社員と論争している場面だ。

「そんな営業をしてたら『間尺』（まじやく）に合わんじやないか」

不満そうな顔の社員が問題を摩^すり替^かえようとする。

「いま、部長さんは『まじやく』と仰言^うられましたけど、それは『間尺』（まじやく）の意味でしょうか」

「きみは何が言いたいんだ。昔、俺は『まじやく』とNHKの日本語教育番組で学んだんだ」

しかし、若い社員が指差す辞書は「まじやく」である。

そのとき、部長が、どんな立場となり、どんな表情を示すか、こんな如何様番組の無責任制作者には分かるはずもない。

日本人同士が日本語で対立する図式は寂しい限りだ。NHK職員に「未来の日本語に責任を負う」という自覚がなければ、それは更に深刻な悲劇と断罪せざるを得ない。

「まじやく」でも「まじやく」でも大差ないじゃないか、目くじら立てるほどの問題とは考えられない、と反論される向きがあるようでしたら、次の例を差し上げてみたい。

「尺八」は「しゃくはち」でも「じやくはち」でも構わないのか。

「一尺」「二尺」「三尺」は「いっしゃく」「にしゃく」「さんしゃく」でも宜しいのか。

やはり「三尺」は「さんじやく」でなければ、「三尺の秋水」に凄みがなくなる。

一一

「尺度」に「じやくど」の読みがあるか。

「曲尺」を「かねしゃく」と言う大工さんがいるか。

「尺寸」には「しゃくすん」以外に「せきすん」の読みがあるけれども、その場合、語の意味が違って来る。

「しゃくすん」なら（寸法・基準）という名詞になるが、「せきすん」なら（わずか・少し）、つまり副詞として用いられる。用例を示すと「尺寸の功」などである。それにしても「じやくすん」はない。

「尺地」の読みは「せきち」と決まっている。

「尺貫法」の復活が叫ばれている。その場面で「じやつかんほう」と主張する人物が現れたら精神の異常を疑われるのではないか。

つまり「しゃく」か「じやく」かは厳密に区別しなければならぬのだ。それは世界中の言語に当てはまる法則である。

NHKの番組制作者は、私の指摘を黙殺しないで真面目に答えなければならない。

B いまでも目立つ個人名

「こずえの天気予報」は間違いなのだ。(関嶋梢)という「人間」は、人間である限り病気にもなる。交通事故にも遭う。ここで書いては非常識との諍そしりを免れ得まぬかないものの、人間を死の範疇はんちゆうがい外に置くべきでない。その場合、この番組の天気予報は消滅するのかわ。当たり前すぎるほど当たり前なのだが、「お元気ですか 日本列島」の「気象情報」なのだ。

「渡邊あゆみ」の「蔵出しトーク」も間違いだ。

「スタジオ パーク」という番組の「蔵出しトーク」なのだ。

個人崇拝に終始する宗教ではあるまいし、公共放送であるNHKのアナウンサーや税金で運営されている気象庁職員の個人崇拝は頂けない。それは間違いなのだ。

テレビ画面に氏名が文字で(ときには振り仮名まで付けて)表示されているのに口頭で氏名を告知するのも間違いだ。時間と労力の濫費である。この点、改善の傾向は見られる。

一一

なかでも顕著なのは(模範的な例は)野村正育アナだ。

「次は気象情報です」

これだけだ。実に爽やかだ。それまで、毎日毎日、アナウンサー全員が執拗に「田代さんです」と繰り返していたのだが、野村アナによってテレビ画面が引き締まった感じだ。

田代さん(気象予報士)にしても、かえって「生き生き」して来た。おそらく、毎朝の氏名告知が煩わしかったのではあるまいか。

野村アナにしても最初の頃は、毎日毎日、饒舌な氏名紹介を続けていた。これも、おそらく、違和感を覚えていたのではあるまいか。

番組に個人名を冠するのが正しいとするならば、「野村のニュース」でなければならぬいし、「田代の天気」さらには「松平のシルクロード」でなければならなくなる。

C アナは天気予報が出来ない

「田代さんと天気予報を……」は「田代さんと(私と二人で)天気予報を……」という

文脈になる。これも間違いだ。

気象情報が提供できるのは、国家試験に合格して資格認定を受けた気象予報士だけなのだ。その資格もない人物が、これを行ったなら大袈裟でなく法律違反（犯罪）になるのだ。NHKアナが逮捕されるような際どい言動を毎日している。これの重大性に誰も気付いていないのだろうか。

NHKの幹部職員が汚職で逮捕されている。アナウンサーも含めて全職員が襟を正さねばならない時期と認識すべきではなからうか。

そもそも、NHK全体が視聴者に対して尊大傲慢である。
以下、その実例を挙げてみたい。

D 無礼な匿名返信

NHKの返信は匿名なのだ。匿名文書は「怪文書」である。私は匿名で意見を申し上げます。私に対して「無礼」な姿勢である。返信文書作成者が不在では無責任文書である。NHKの無責任体質が露呈しているではないか。

官公庁でさえ返信には個人名が記載されている。岩波書店・旺文社・シャープ・東芝など、民間の返信にも返信担当者（責任者）の氏名が明記されている。それが、日本の常識なのだ。NHKだけが非常識なのだ。

私の質問に左記の返信があった。

署名の件につきまして申し上げます。NHK内の各部署の担当責任者等が直接ご返事を差し上げる際には原則として署名をしておりますが、当コーナーでは、不特定多数の視聴者の方々から毎日頂戴する多数のお手紙やはがき、FAXなどにつきましてグループとして対応させていただいている関係上、個人個人の署名は原則として致しておりません。ご納得は戴けないかも知れませんが、何とぞ当方の事情をご賢察くださいますようお願い申し上げます。

二〇〇五年六月三日

NHK視聴者コーナー

(投書担当)

この返信作成者が「ご納得は戴けないかも知れませんが」と認めている通りで、私は承服できない。官公庁でも民間企業でも「グループとして対応」しているのだ。それでも、担当者（文面作成者）氏名を明らかにしている。なぜ、NHKだけが、日本の常識にもない無礼な対応をするのだ。文書末尾の（投書担当）も不快である。私は「投書」などしてない。NHK会長に提言を（匿名でなく）したのだ。

さらに問題がある。返信担当部局が「視聴者コーナー」であつたり「視聴者ふれあいセンター」であつたり、まことに分かり難い。これについては、左記の弁明があつた。

これにはお詫びしなければならぬ込み入った事情がございます。この三月までは「視聴者総局」の中に「視聴者ふれあいセンター」があり、その下部組織として私どもの「視聴者ふれあいコーナー」がございました（区別のつきにくい名称で申し訳なく存じます）。そして、視聴者サービス向上のためこの四月下旬に組織改正を実施し「視聴者ふれあいセンター」は「視聴者センター」に、また「視聴者ふれあいコーナー」は「視聴者コーナー」にそれぞれ名称変更を致しました。先月差し上げたご返事では、発信部局名が「視聴者ふれあいコーナー」の新名称「視聴者コーナー」となっているのに対し、封筒には上部組織の旧名称のゴム印「視聴者ふれあいセンター」を押してしまつたため、二重に混乱を生じさせご迷惑をおかけする結果となつてしまいました。深くお詫び申し上げます。

一四

このNHKの返信を読んで私は目を白黒させてしまった。これを読んで理解できる方は実に明晰な頭脳の持ち主と断言して差し支えない。

「視聴者サービス向上のため」組織改正を実施と揚言よちげんしているが、なぜ、どこが「視聴者サービス」になつているのか。「ふれあい」の文字が削除されただけではないか。

そんな程度の小手先細工で「視聴者サービス」が可能と本気で考えているのか。考えているとしたら正気の沙汰とは思えない。「センター」だの「コーナー」だの、そんな区別が視聴者にとって何の意味を持つのか。新名称のゴム印作成や封筒印刷の経費は誰が負担するのだ。NHKの支出は公金である。公金の無駄遣いをしているのと同然ではないか。

まことにNHKとは官僚的組織！これが私の結論的感想である。